

第 1 回 横須賀市障害福祉計画等検討部会議事録

日 時 令和 8 年（2026 年） 6 月 18 日（木）14 時 00 分から 16 時 00 分

会 場 横須賀市役所本庁舎 3 号館 3 階 301 会議室

出席委員 岸川部会長、海原職務代理者、勝木委員、金子委員、五本木委員、清水委員、下江委員、
高谷委員、山邊委員、山本委員、椿委員、深井委員
オブザーバー代理 黒川氏

事 務 局 障害福祉課 八橋課長、小野主査、金子主任

議 題 よこすか障害者計画（第 8 期横須賀市障害福祉計画及び第 4 期横須賀市障害児福祉計画を含む）の策定について ほか

配布資料 別紙次第

審議概要

1 定足数報告・一般傍聴報告

- ①事務局が司会となり開会した
- ②配布資料を確認した
- ③定員数 14 名中、12 名の出席があり、会議が成立している旨を報告した
- ④傍聴者 1 名

2 委員等自己紹介

- ① 各委員・事務局の自己紹介を行った

3 部会長の選出及び職務代理者の指名

- ① 事務局から、部会長の選出について立候補または推薦を求めた
- ② 海原委員から、岸川委員を部会長に推薦する発言があった
- ③ 岸川委員に就任のご意向を確認したところ承諾を得られ、異議もなかったため、部会長は岸川委員に決定した
- ④ 岸川部会長が海原委員を職務代理者に指名した

4 議事

- （1）検討部会のスケジュール（予定）
- （2）本市の障害者の状況について
- （3）現計画の進行管理について
- （4）策定する計画の構成について

- ① 事務局から、資料 1、資料 2、資料 3－1、資料 3－2、資料 4 に基づき一括で説明が行われた
- ② 各委員から質疑・意見があった

●金子委員

資料 3－1（3 ページ）にある「（6）相談支援体制の充実・強化等」の実績値はどのように計上しているのか。

●事務局

基幹相談支援センター機能強化事業として主任相談支援専門員の所属する法人に基幹相談支援センターの一部業務を委託しており、同法人から提出された実績報告書に基づき計上している。

●海原委員

資料2（17ページ）にある「入所施設は他の居住場所と比べ相対的に高齢化傾向がうかがえる」という現状を踏まえ、資料3-1（1ページ）記載の成果目標「（1）福祉施設の入所者の地域生活への移行」については、国や政策の大きな潮流は理解しつつも、実際の達成は非常に難しいのではないかと問題提起があった。現実的な目標設定として、入所施設が地域とどのように溶け込んでいくかを検討すべきではないか。

●事務局

市としても、本人の高齢化に伴う身体機能・認知機能の低下による重度化や、地域生活を支える家族等の介護者の高齢化を背景に、入所施設のニーズが一定程度存在することを認識している。施設入所者数の削減を目的とするのではなく、ご意見のとおり、どのような暮らしの場であっても地域との交流が図られていることが重要であると考えている。

●下江委員

資料3-1（1ページ）では、精神障害者の共同生活援助の利用者が増加している一方で、地域移行支援・地域定着支援・自立生活援助の利用者は非常に少ない状況にある。あわせて、他市と比較して長期入院者が多いとの話もある中、手厚い支援が必要な重度・高齢の精神障害者に対する支援が不足していることが示唆されるのではないか。現行の相談支援体制には限界があり、アウトリーチや伴走型支援を充実させなければ、地域生活者の増加につながりにくいと思う。

●五本木委員

資料2（37・38ページ）から、障害児通所支援を利用する子どもについて、手帳未交付のままサービスを利用している児童が多いこと、またケアニーズの高い重度障害児が相対的に少数となっている現状が読み取れる。3年前と比較して「障害児」の対象像が変化してきているのではないか。こうした現状を踏まえ、障害児計画を策定する必要があると思う。

（5）アンケート調査の結果について

（6）障害とくらしの支援協議会からの意見について

（7）地域ごとのサービス提供状況

① 事務局から資料5-1、資料5-2、資料6-1、資料6-2、資料7に基づき一括で説明が行われた

② 各委員から質疑・意見があった

●高谷委員

資料5-1（6ページ）で「夢や目標を持てません」と回答している人がいることについて、非常に懸念している。回答者がこのように回答した背景について分析できないか。

●事務局

他の設問における回答状況の確認は可能だが、回答理由などの要因分析までは難しい。また、本調査は無記名方式のため、個別のアプローチはできない。

●海原委員

資料7（18 ページ）では共同生活援助の地域偏在が示されているが、事業者指定は人員・設備等の基準を満たせば指定されるため、施策の趣旨である重度・高齢障害者の暮らしの場として十分に機能していない現状がある。加えて、近年の家賃補助や整備費補助金の見直しの影響もあり、新規参入は以前より鈍化しているのではないかと。

今後、総量規制の議論も想定されるが、新規参入の抑制にとどまらず、重度・高齢障害者の暮らしを支える観点から検討していきたい。

●勝木委員

地域生活者の増加に向けた方策は、共同生活援助に限らず複数のアプローチが必要ではないかと。個別ニーズの実現に向けて、支援体制をどのように整備していくかについて、多面的に検討していくことが望ましい。

●下江委員

資料5-1（7 ページ）では、「身近に相談できる人がいない・少ない」との回答が、中軽度の精神障害のある人で相対的に高い傾向がみられるとのことだが、会員等から聞く話でも同様の実感がある。相談支援事業所がより相談しやすい場となることを期待する。

●金子委員

相談支援を必要としている人を相談支援事業所につなげていくため、計画相談支援の受け皿を増やしていく方向性の促進についても、総量規制の議論と併せて計画に記載されたい。

●金子委員

放課後等デイサービスの地域偏在について、送迎を実施している事業所が多いと聞く中で、地域別に整理して見ることは適切なのかな。

●五本木委員

送迎を実施している事業所が多いのは事実だが、送迎には範囲の限界があり、市内のどこへでも送迎できる状況ではないことから、各地域の児童数等も踏まえ、地域別での整理が必要と思う。

●山邊委員

北地域では放課後等デイサービス事業所が比較的少ない傾向にあるが、北地域は金沢区など市外事業所の利用も想定される。そうした利用状況を踏まえたデータ分析はできているか。

●事務局

市外事業所の利用状況については請求実績の中で承知しているが、今回は市内事業所に限った分析としている。

(8) 基本理念、施策の体系及び施策の展開（案）

(9) 成果目標と活動指標及び見込み量等の項目（案）

① 事務局から資料8、資料9に基づき一括で説明が行われた

② 各委員から質疑・意見があった

●下江委員

横須賀市の財政状況や人材不足など厳しい制約がある中でも、課題解決に向けて実行可能な内容を計画に具体的に記載されたい。

●金子委員

今回の計画では、資料8「第3章3 よこすか障害者計画での重点項目」にある内容のうち、「地域生活支援拠点等の整備」「相談支援体制の充実」「防災対策の推進」について、施策として特に促進されたい。併せて「防災対策の推進」については、危機管理課との庁内連携や地域住民との連携も含めた内容が望ましい。

●勝木委員

災害時の備えについては、能登半島地震などの事例も参考にしながら、できることを整理し、具体的な行動につながる形で整理されたい。

●下江委員

市長が掲げる「誰も一人にさせないまち」という理念を踏まえ、本計画の基本理念にも同様のニュアンスを取り入れ、横須賀らしさを感じられる表現とできると良いのではないかな。

●五本木委員

障害児の親の立場として望む地域は、現行（案）の「住み慣れた地域で安心して暮らしていくことのできるまち」のとおりと感じている。

●事務局

本計画の上位計画である地域福祉計画では、理念として「誰も一人にさせないまち 横須賀の実現」を掲げている。本日いただいたご意見を踏まえ、次回部会で基本理念の再検討（案）を提示する。

5 閉会

以上